

島国日本

大森 海太

日本列島は大昔、大陸から切り離され、そこへ朝鮮半島や樺太、或いは南方諸島からの人々が移り住み、やがて縄文人となった。その後、大陸から水田稲作と共に弥生人が渡来して縄文人と共存し、さらに主として朝鮮半島經由、様々な文化や技術がもたらされた。三世紀ころからの倭国はとくに百済との関係が深く、人的交流も盛んだったと言われる。

七世紀央、白村江の戦に敗れて以降流れはかわり、日本は遣隋使、遣唐使によって中国の制度を取り入れつつも、独自の文化を形成していった。文字がないところに漢字が伝えられ、仮名文字が生まれて十世紀末に平安文化の華が開いたのは、その一例である。

いっぽうこれを境目として外国の人との混血はほとんど途絶え、日本人は千数百年前以来、ほぼ純粹培養のまま二十一世紀の今日に至っている。

話は違うが、今年四月のマスターズでは松山英樹が、六月の全米女子オープンでは笹生優花が、いづれも日本人初の優勝という快拳をなしとげた。問題はその後の記者会見。松山は通訳付きで、内容もイマイチ。これに対して優花ちゃんはお母さんがフイリピン人ということもあり、英語で堂々と受けこたえた。世界のゴルフ界では、中国人や韓国人のプロゴルファーたちが活躍しているが、彼らは英語はもとより、日本に来る連中は一応の日本語も話すバイリンガル、トリリンガルたちだ。

ゴルフに限らず、今日様々な分野で多くの国の人がしたたかに主張を交しており、これには良し悪しは別にして共通語となった英語が不可欠だ。その中で日本人は僻目かもしれないが、なにかおどおどしてヒヨクに見える。内弁慶はやめて、下手でもいいから外国語で怖めず臆せず自己主張できる、若い人にはそんなことを期待したい。

島国日本は美しい反面、純粹培養による弱さは否定できない。特色ある日本文化や日本語を大切に守りながら、一方ではある程度外の血を受け入れていくべきと思うが、欧州などの難民問題を見ると簡単ではない。